

第十三回
Matsumoto Seicho
松本清張

研究奨励事業
研究報告

韓国における清張作品の受容に関する調査・分析

(映像化された作品を中心に)

森脇 錦穂

ホ ナムウン

北九州市立

松本清張記念館

韓国における清張作品の受容に関する調査・分析

(映像化された作品を中心に)

森脇 錦穂

ホ ナムウン

目次

研究目的・方法

一章 韓国における日本映像物受入の歴史とその背景

一〇一 韓国に於ける日本映画開放の背景

一〇二 韓国に於ける日本大衆文化開放後の成果

一〇三 期待外れだった日本映画の影響力

一〇四 特化された日本映画

(一) ジャパニメーション

(二) jホラー

(三) 日本の青春映画

一〇五 今後の展望

二章 松本清張原作映像作品の韓国における公開経緯とその反応

二〇一 映画

二〇二 ドラマ

(一) 通勤列車ラブ

(二) 霧の旗

三章 韓国で映画化された宮部みゆき作品に対する評価

三〇一 松本清張と宮部みゆき

三〇二 韓国での宮部みゆきの人気

三〇三 映画『火車』はどのように作られたか

三〇四 映画『火車』に対する韓国民の反応

四章 韓国の若者は清張作品をどのように受け止めたか

四〇一 アンケート調査について

(一) アンケート調査の期間・対象者

(二) アンケート調査の内容

(三) アンケート調査の結果

(三)―一 『ゼロの焦点』鑑賞者の回答

(三)―二 『砂の器』鑑賞者の回答

(四) アンケート調査の集計と考察

(四)―一 作家・松本清張の認知度(問一・問四から)

(四)―二 松本清張原作の映画に対する評価(問六・問三から)

(四)―三 二つの映像作品を観て感じたことは何か(問五から)

五章 まとめ

1	研究目的・方法
2	一章 韓国における日本映像物受入の歴史とその背景
2	一〇一 韓国に於ける日本映画開放の背景
2	一〇二 韓国に於ける日本大衆文化開放後の成果
3	一〇三 期待外れだった日本映画の影響力
4	一〇四 特化された日本映画
4	(一) ジャパニメーション
5	(二) jホラー
5	(三) 日本の青春映画
6	一〇五 今後の展望
7	二章 松本清張原作映像作品の韓国における公開経緯とその反応
7	二〇一 映画
8	二〇二 ドラマ
9	(一) 通勤列車ラブ
9	(二) 霧の旗
10	三章 韓国で映画化された宮部みゆき作品に対する評価
10	三〇一 松本清張と宮部みゆき
10	三〇二 韓国での宮部みゆきの人気
11	三〇三 映画『火車』はどのように作られたか
11	三〇四 映画『火車』に対する韓国民の反応
12	四章 韓国の若者は清張作品をどのように受け止めたか
13	四〇一 アンケート調査について
13	(一) アンケート調査の期間・対象者
13	(二) アンケート調査の内容
14	(三) アンケート調査の結果
14	(三)―一 『ゼロの焦点』鑑賞者の回答
18	(三)―二 『砂の器』鑑賞者の回答
21	(四) アンケート調査の集計と考察
21	(四)―一 作家・松本清張の認知度(問一・問四から)
21	(四)―二 松本清張原作の映画に対する評価(問六・問三から)
22	(四)―三 二つの映像作品を観て感じたことは何か(問五から)
23	五章 まとめ

研究の目的

松本清張生誕百年を迎え、国内では清張作品の映画やテレビドラマがリメイクされ、韓国や台湾においても『宮部みゆき責任編集・松本清張傑作短篇コレクション』（上・中・下巻）が相次いで出版されるなど、近隣アジア地域においても「清張」が再評価されている。

韓国では一昨年、日本で二五年ぶりに映画化された『ゼロの焦点』が上映され、広末涼子を配した犬童一心監督の作品が清張ファンの関心を集めた。戦後、とりわけ日韓国交正常化以降、松本清張の作品の多くが韓国語に翻訳され、韓国の主要大学の図書館にも多くの清張作品が所蔵されるなど、韓国での清張人気は根強い。

こうした状況から鑑み、韓国をはじめ東アジア地域に関心を持ち続けた清張に思いを馳せながら、現代を生きる韓国人の目に松本清張の作品がどのように映り、またどの程度受容されているかを探るのが本研究の目的である。

韓国においては翻訳などの活字媒体によって紹介された清張作品の調査・研究は既に行われていることから、本研究ではその対象を「映像化された清張作品」に絞り、その受容状況を把握すると共にその影響について調査・分析を行なう。

研究の方法

(一) これまで韓国で放映された松本清張原作の映画やテレビドラマを調査し、その当時の韓国の政治・社会情勢や韓国民の関心事などを通じて清張作品受容の素地を考察する。

(韓国に於ける清張作品の出版社をはじめ、韓国マスコミから関連情報を収集し、これを調査・分析すると共に関係者へのインタビューを行なう)

(二) 若年層、特に大学生を対象にした試写アンケート調査を行い、清張作

品に対する感想及び評価に関するデータを収集し、これに基づいて韓国における清張作品の受容分析を行なう。

(清張作品の中から『砂の器』と『ゼロの焦点』を韓国の大学で試写上映し、鑑賞者の感想や評価をデータ化する)

一章 韓国における日本映像物受入の歴史とその背景

一一一 韓国に於ける日本映画開放の背景

『新・仁義なき戦い』、『愚か者』、『傷だらけの天使』などの作品を手がけた坂本順二監督は、故・金大中大統領を、「韓国と日本は隣国でありながら、これまで両国間には大きな距離感があったが、その障壁を低くした日韓文化交流の功労者」と評価した。その理由は、故・金大中氏が大統領在任中に行つた日本大衆文化の自由化にある。一九九八年一〇月、金大中大統領は、国賓として日本を訪問した際、「二一世紀の新しい日韓パートナーシップ共同宣言」を発表し、日韓両国の新しい友好協力関係の構築に向けた歴史的な転機をつくつた。これによって韓国では日本の大衆文化に対する部分的な開放が実現した。

当時、韓国政府はいくつかの点で日本の大衆文化を開放する方が韓国にとつて有利であると判断したようだ。韓国の人々にとって日本の大衆文化は全く馴染みのないものではなかったからである。『ラブレター』（一九九五年）¹⁾、『シャル・ウィ・ダンス』（一九九六年）、『リング』（一九九八年）などは勿論のこと、宮崎駿や押井守の作品など、日本のアニメーションが韓国の大学街を中心に急速に広まった時期でもあった。こうした状況下で日本の大衆文化を開放しなければ、陰性化し、非合法的に広がる可能性が高まっていた。当初、段階的に開放する方法をとつた理由は、良質のコンテンツを有する日本の大衆文化が韓国文化の発展を妨げるという懸念を抑えるためであった。しかも、韓国政府は開放した日本の大衆文化が韓国文化を侵食するほどの影響力を有するとは思っていなかった。『銀杏の木の上のベッド』（一九九六年）のカン・ジェギョ、『八月のクリスマス』（一九九八年）のホ・ジンホ、『静かな家族』（一九九八年）のキム・ジウンなど、若い感性豊かな新世代の監督が台頭し、可能性を發揮していることから、十分な支援を行えば日本映画と競うだけの実力を持ち得ると考えていた。通貨危機²⁾のなかで執権した金大中大統領にとって、経済危機を乗り切るためには日本との関係改善が必須条

件であった。まず、日本の大衆文化を開放した後、日本から経済協力を引き出すことが韓国政府の狙いであった。

一九九八年一〇月、最初に行われた日本大衆文化開放計画を手始めに、二〇〇四年一月まで、四回にわたつて開放計画が実施され、ついに日本の大衆文化が全面的に自由化された。最初の開放計画では世界の四大映画祭（カンヌ、ベニス、ベルリン、アカデミー）で作品賞や監督賞を受賞した作品や日韓共同製作の映画に限定。一九九九年九月一〇日の第二次開放計画では、国際映画祭受賞作品や児童が鑑賞できる映画にまで開放対象を拡げた。二〇〇〇年六月の第三次開放計画では、映像物等級委員会が認めたと一五歳まで鑑賞可能な映画をはじめ、国際アニメーション映画祭など、各種の国際映画祭での受賞作品が限定開放され、更に劇場用アニメーションの自由化が図られ、二〇〇四年一月一日に文化観光省が発表した日本大衆文化第四次開放計画によって、一八歳鑑賞可と制限付き上映可（成人映画）の日本映画が全面的に開放されることになった。

一一二 韓国に於ける日本大衆文化開放後の成果

日本映画の開放第一号作品は、北野武監督の『花火』（一九九七年）であった。ベニス国際映画祭で金獅子賞を受賞したが、日本の大衆文化第一次開放計画の条件に合致したからである。特に北野武はお笑い芸人として名を馳せている日本と違い、韓国では真摯な映画監督として評価され、多くの映画ファンの支持を得ていた。しかし、ソウルでは四万人程度の観客動員数に止まり、期待外れの結果に終わった。さらに、『影武者』（一九八〇年）と『うなぎ』（一九九七年）がカンヌ国際映画祭での黄金奨励賞受賞を背景に韓国で封切られたが、ソウルでの観客動員数はそれぞれ六万五千人、三万人と振るわず、いずれも低調な成績であった。

しかし、第二次開放計画の実施によって鑑賞可能映画の自由化がさらに拡大され、ビッグ・ヒットと言える日本映画が登場した。一九九九年十一月に『ラブレター』がソウルにおいて観客動員数六四万人を記録した。映画の中

(表1) 韓国で公開された日本映画・歴代興行トップ10

順位	タイトル	観客数*3	公開日
1	ハウルの動く城	981,221人	2004年12月
2	千と千尋の神隠し	937,459人	2002年6月
3	ラブレター	645,615人	1999年11月
4	借りぐらしのアリエッティ	373,701人	2010年9月
5	崖の上のポニョ	365,428人	2008年12月
6	呪怨	345,769人	2003年6月
7	踊る大捜査線	300,767人	2000年7月
8	日本沈没	245,740人	2006年8月
9	侍フィクション	224,256人	2000年2月
10	鉄道員(ぼっぼや)	219,327人	2000年2月

資料：映画振興委員会ホームページ (www.kofic.or.kr) 資料室

「だ」というのが関係者の主張であった。日本映画開放後、韓国で公開された日本映画の歴代興行トップ10(表1)を見ると、一位、二位共に宮崎駿の『ハウルの動く城』(二〇〇四年)、『千と千尋の神隠し』(二〇〇二年)が占めるなど、日本のアニメーションは韓国の映画関係者にとって最も手強い日本映画、所謂「キラークンテンツ」であった。強力な抵抗に直面した韓国政府は、日本のアニメーションの全面開放を暫く保留する代わりに、第三次開放計画では国際映画祭の受賞作品に限って部分的に許可し、関係者の不満を鎮めようとした。しかし、日本のアニメーションの韓国内における市場規模が思ったより低調なレベルであることが明らかになった。

のセリフ、「おげんきですか」が国民的な流行語になり、倉本由紀のOSTアルバムが飛ぶように売れた。これによって、韓国の各輸入配給会社は『ラブレター』のような大衆向け映画の輸入に熱をあげるようになった。『侍フィクション S.F. Episode One』(二〇〇〇年二月封切、観客動員数二二万人)、『鉄道員・ぼっぼや』(二〇〇二年、同二二万人)、『シャル・ウィ・ダンス』(二〇〇〇年五月、同三〇万人)、『踊る大捜査線』(二〇〇〇年七月、同三〇万人)などが相次いで公開され、日本映画の人氣が続いた。日本映画に対する期待が高まり始める一方で、不安感を抱きはじめてのは韓国のアニメーション関係者であった。日本の文化コンテンツの内、世界的に強い影響力を持つ日本のアニメーションの自由化を目前に控え、これを反対する大規模なデモが行われるほどであった。韓国のアニメーションはまだ産業化の土台が脆弱で、隣接する韓国にとって情緒的に共通点の多い日本のアニメーションの開放は、「韓国アニメーションに死刑宣告を告げるものだ」というのが関係者の主張であった。日本映画開放後、韓国で公開された日本映画の歴代興行トップ10(表1)を見ると、一位、二位共に宮崎駿の『ハウルの動く城』(二〇〇四年)、『千と千尋の神隠し』(二〇〇二年)が占めるなど、日本のアニメーションは韓国の映画関係者にとって最も手強い日本映画、所謂「キラークンテンツ」であった。強力な抵抗に直面した韓国政府は、日本のアニメーションの全面開放を暫く保留する代わりに、第三次開放計画では国際映画祭の受賞作品に限って部分的に許可し、関係者の不満を鎮めようとした。しかし、日本のアニメーションの韓国内における市場規模が思ったより低調なレベルであることが明らかになった。

一九九三年に夕張国際冒険・ファンタスティック映画祭で夕張市民賞を受賞した『侍獣兵衛忍風帖』(一九九三年)は、韓国で初めて紹介された日本のアニメーションであった。しかし、ソウルでの観客動員数は三千人という惨めな結果に終わり、封切一週間で看板を下ろす苦い経験をした。以後、『風の谷のナウシカ』(二〇〇〇年、観客動員数八万人)、『アバロン』(二〇〇一年、同五万人)、『攻殻機動隊』(二〇〇二年、同三万人)など、全面自由化の前に封切られた日本のアニメーションは、その名声と完成度にふさわしい観客動員力を発揮することができなかった。

一―三 期待外れだった日本映画の影響力

日本のアニメーション、所謂「ジャパアニメーション」が予想したほどに力を発揮できなかったことを目の当りにして、日本映画に注目した韓国映画関係者の見方が変わり始めた。日本大衆文化の「全面開放」が未だ実施されていない制限的な状況を考慮しても、日本映画の韓国市場における影響力は、当初、日本の大衆文化が韓国文化を侵食すると憂慮していた人々の予想を覆すことになった。(表2)で示すように、日本映画の輸入が活発だった二〇〇〇年を除き、日本映画の韓国での市場シェア(表3)は甚だ不振を極めた。こうした結果について、韓国映画界は様々な角度から分析を行っている。映画振興委員会が出版した「日本映画市場研究」の第五章、韓国に進出した日本映画分析の中で、「日本映画が韓国で成功することができなかった理由」について、「韓国人と日本人の間に存在する趣向の差にその理由があると思います。ベースになる国民性、言い換えれば、両国の観客の趣向の違いが韓国映画と日本映画の距離感を生む要因になっています。日本人に容易に受入れられるものとして表現の客観性や感性がありますが、韓国人の場合、辛辣

(表2) 日本映画の韓国での公開状況 (1998~2003年)

年 度	公開本数	最高興行作品	主な興行作品
1998年	9本	「影武者」6万5千人	「花火」4万人
1999年	15本	「ラブレター」64万人	「うなぎ」7万人、「リング」4万人
2000年	39本	「シャル・ウィ・ダンス」30万人	「踊る大捜査線」29万人 「侍フィクション」28万人
2001年	36本	「となりのトトロ」13万人	「鼻の城」6万人、「アバロン」5万人
2002年	12本	「千と千尋の神隠し」94万人	「秘密」18万人 「バトルロワイアル」6万人
2003年	20本	「呪怨」34万人	「猫の恩返し」22万人、「呪怨2」15万人

資料：映画振興委員会ホームページ (www.kofic.or.kr) 資料室

(表3) 日本映画の韓国内における市場シェア

1998年	1999年	2000年	2001年	2002年	2003年
0.4%	3.2%	7.4%	1.4%	3.2%	2.9%

資料：映画振興委員会、<韓国映画年鑑>各年度版及びホームページ (www.kofic.or.kr) 資料室

且つ直接的な表現を好みます。」と語る専門家のコメントは注目に値する。「現在、韓国ではトレンドに対する感覚が映画の成功を左右する重要なカギになっていきます。娯楽映画なのか、テーマ性のある感動的な映画なのか非常に重要です。映画の娯楽性は、映画が誕生した瞬間から現在に至るまで、映画の持つ本質的な機能のひとつであることは否定できません。しかし、映画の娯楽性を通じて韓国と日本の違いを見つけ出すことができます。韓国の

娯楽映画は素直に発散する笑いを誘う一方、日本の娯楽映画は内面的な笑い、表にあまり現れない笑いを表現しています。日本の友人は韓国の映画からはある種の

パワーが感じられ、それが新鮮な印象を与えると言っています。*1

さらに、一九九〇年代後半から韓国国内で国産映画の競争力がハリウッド映画を凌ぎ、国内シェアが五〇%を越える状況になると、第四次開放によって日本の大衆文化が全面的に自由化されても、国内市場の侵食は制限的であるとの見方が韓国映画関係者やファンの間で急速に広が

り始めた。しかし、こうした状況が、即、日本映画の失敗を意味するものではないことは言うまでもない。むしろ、全面的な自由化と共に日本映画に対する選択の幅が広がれば、韓国内の配給会社や映画館は日本映画の興行による流通マージンを得ることができ、また、長期的には韓国の映画ファンの需要を刺激し、韓国の映画製作に多様性をもたらすきっかけになるという肯定的な側面も指摘できる。

一四 特化された日本映画

(一) ジャパニメーション

二〇〇四年一月一日から日本映画が全面的に開放されると、韓国内の輸入配給会社は作品の選別に慎重を期し、損失リスクが少ない日本映画を中心に輸入する姿勢を見せはじめた。その結果、日本のアニメーションやJホラーと呼ばれる恐怖映画、さらには小規模の青春映画が韓国ファンの関心を集めた。なかでも、観客動員力の高いジャンルを挙げれば、やはり日本のアニメーションである。特に「ジブリ・スタジオ」の作品であれば、興行的に成功間違いなしとまで言われた。

既に韓国で封切られた日本映画の歴代興行順位を見ても、一、二位を占める『ハウルの動く城』や『千と千尋の神隠し』をはじめ、アニメ作品が四本も含まれている。『となりのトトロ』、『崖の上のポニョ』、『借りぐらしのアリエティ』は封切られた年に観客動員数が最も多い日本映画であった(表4)。ジブリ・スタジオ作品に向けられた韓国人の視線は宮崎駿に対する信頼と見るべきであろう。現在、韓国の三・四〇代は幼年期にテレビを通じて『未来少年コナン』のような日本のアニメーションに慣れ親しみ、宮崎駿の作品に感動した世代と言える。そのため宮崎作品が封切られると聞くと、親になった世代が子供と一緒に劇場に足を運ぶ文化が自然に形成されている。まさに韓国の家族映画市場の一定部分はジブリ作品を始めとする日本のアニメーションが担っているわけである。例えば、子供の日や夏・冬休みシーズンには、

(表4) 日本映画の韓国封切りの現状 (2004~2010年)

年度	公開本数	最高興行作品	主な興行作品
2004年	28本	「ハウルの動く城」98万人	「世界の中心で 愛をさけぶ」18万人 「着信アリ」11万人
2005年	24本	「今、会いに行きます」8万人	「着信アリ2」7万人 「東京タワー」5万人
2006年	34本	「日本沈没」25万人	「デスノート 前篇」20万人 「輪廻」9万人
2007年	58本	「デスノート： ラストネーム全編2」15万人	「ヒーロー Hero」10万人 「涙そうそう」5万人
2008年	36本	「崖の上のポニョ」37万人	「デスノート 前編3」8万人 「20世紀少年」7万人
2009年	29本	「名探偵コナン： 漆黒の追跡者」14万人	「呪怨3」8万人 「サマーウォーズ」6万人
2010年	38本	「借りぐらしの アリエッティ」37万人	「名探偵コナン：天空の難破船」12万人 「劇場版ポケットモンスター DP-歓迎の霸王ゾロアーク ダイヤモンド&パール」6万4千人

資料：映画振興委員会ホームページ (www.kofic.or.kr) 資料室

韓国の輸入配給業者の競争はますます激しくなり、輸入価格も年々高騰している。

(一) J ホラー

今日、Jホラーに対する韓国のファンの関心度は沈静化しているが、韓国

『名探偵コナン』や『ポケットモンスター』のような劇場版テレビアニメーションが短期的な特需を生み出す。『名探偵コナン』漆黒の追跡者の場合、二〇〇九年に韓国で封切られた日本映画の中で最も多い観客動員数を記録した。こうした種類のアニメーションは、韓国映画市場における日本映画の記録集計で常に上位を占めるほどである。そのため劇場版のテレビ・ジャパニメーションを

獲得しようとする

の輸入配給業者にとって日本のホラー映画は、相変わらず収益が見込める魅力的なコンテンツである。韓国では一時期、Jホラー旋風が巻き起こり、『呪怨』シリーズの封切られた二〇〇三年がピークであった。『呪怨』、『呪怨二』が公開された二〇〇三年には、韓国で公開された日本映画の内、観客動員数がそれぞれ一位と三位を占めたのははじめ、その年に輸入された二〇本の日本映画の中でJホラーが七本であった。二〇〇三年にブームになったJホラー旋風は突然吹き荒れた現象ではなかった。既に一九九〇年代後半から韓国の熱烈なファンの間では不法コピーしたビデオなどでJホラーを観る文化が存在していた。

そのきっかけになったのが中田秀雄監督の『リング』であった。幽霊のサダコがテレビのブラウン管を通じて現実世界にやってくる場面は、観客を驚愕させる恐怖のものであった。『リング』は日本映画の自由化以前から映画ファンの間では話題の作品であった。ほとんどの人が不正コピー版などで観終えた時期に封切られた『リング』は、ソウルでの観客動員数四万人という惨めな記録に終わったが、Jホラーは怖いという認識を韓国の観客に植えつけ、その後公開された呪怨シリーズが人気を集めた。しかし、Jホラーというだけで、水準に満たない作品まで無差別に輸入・公開が繰り返され、ファンの関心は急速に冷めていった。『呪怨』の韓国公開後、八年が経過したが、この映画の興行実績をしのぐ作品は未だ登場していない。

(二) 日本の青春映画

韓国で封切られた日本映画の中で、最も興味深い成功事例をあげるとすれば、やはり『ジョゼと虎と魚たち』(二〇〇四年、以下『ジョゼ』とする)であろう。この映画の観客動員数は三万七千人程度であったが、輸入額が約二千五百万ウォン(日本映画の輸入配給額は一〇億ウォンを優に越すのが普通と言われる)と格安であったことを考慮すれば、驚くべき動員数である。五つの映画館で三ヵ月余りに渡って上映され、入場料収益だけで三億ウォン、輸入額の一〇倍を上回る利益を上げた。

『ジョゼ』が高い収益率をあげることができたのは、韓国では見ることのできない青春映画という点にある。一九九〇年後半から韓国映画は、社会性に満ちた作家主導的な映画と商業性だけを追求する娯楽作品に分けられ、一〇代や二〇代が楽しめる青春映画は皆無に等しかった。その隙間を攻略したのが『ジョゼ』であった。徹底的に個人の悩みに焦点を当てた青春映画という点が韓国の若者達の感性を刺激し、小旋風を巻き起こした。ただ『ジョゼ』のように小規模な映画は、全国的なマーケティングを展開することができず、多くの上映館を確保できないという限界があった。それにも関わらず、インターネットに慣れ親しむ若者達が積極的に『ジョゼ』に関するブログを書きこみ、口コミによって長期待映という結果をもたらした。

『ジョゼ』は、話題作中心で紹介されてきた既存の日本映画の輸入パラダイムを変えた映画であると評価できる。『ジョゼ』の成功によって犬童一心監督の『メゾン・ド・ヒミコ』（二〇〇六年）、『金髪の草原』（二〇〇六年）、『黄色い涙』（二〇〇七年）、『グーグーだって猫である』（二〇〇八年）などの作品が次々に韓国で紹介された。これらの映画に出演した妻夫木聡、池脇千鶴、上野樹里などの人気が高まり、彼らが主演した映画も輸入されるようになった。こうした作品を通じて、「日本映画は小規模で個人的な話にこだわり、若い映画ファン、特に二〇代の女性が好む作品」として多くの韓国の映画ファンに認識されるようになった。

一五 今後の展望

二〇一一年現在、韓国の映画市場で日本映画の存在感は極めて薄い。家族向けの日本のアニメーションだけが満足に値する興行収益を上げているだけで、それ以外の作品は公開の事実すら知られないまま消えていくケースが多い。なかでも二〇〇八年に封切られた『二〇世紀少年』のようなブロックバスター映画の興行失敗は、韓国における日本映画の将来を暗示している。

「日本映画マニアの購買力については殆どが懐疑的だ。原作に対する期待が相当高かった『二〇世紀少年』のような大作も、日本の作品であるという

理由で輸入を躊躇した」と、『二〇世紀少年』を買い付けた関係者は当時を回想する。三部作であったため、三篇をパッケージで購入しなければならなかったことも負担であったようだが、この映画輸入業者は原作マンガのファンを見込んで賭けに出る選択をした。ソウルだけでも五〇館で上映された『二〇世紀少年』は、観客動員数七万人という惨敗に近い興行成績で、輸入業者は莫大な損害を被ることになった。『二〇世紀少年』第二章・最後の希望』は、わずか五館で一、〇〇〇人程度の観客を動員するに止まり、『二〇世紀少年』第三章・私たちの旗』の場合、陽の目を見ることはなかった。

日本映画の輸入に係わる韓国の映画関係者の苦情も注目に値する。韓国で日本映画の興行が厳しくなったことと合わせて、韓国の映画輸入業者は日本側の映画会社との実務を進めるうえでの難しさを口にする。日本側の会社は映画を対する韓日両国間の文化的な違いを認めようとせず、決められたフレームにこだわり過ぎて融通性に欠けるといっているのである。その一例として、『花より男子』（二〇〇八年）を輸入した韓国の輸入業者は、出演者の中の一人、松本潤が韓国でも人気の高いグループ、「嵐」のメンバーであることに着目し、彼にスポットを当てた広報計画を立てた。しかし、韓国の輸入業者は間もなくその計画を撤回せざるを得なくなった。日本のポスターと違い、韓国のポスターでは松本潤のイメージを少し大きく膨らませ、彼を目立つように中央に移動させたのだが、これに対して日本側は原本のポスターを毀損するものであり、移動は認められないとして修正を強く求めてきたからである。

また、某映画輸入業者は日本側の映画会社の一方的な広報計画を押し付けられ、困難を極めていると悩みを語った。ある日本からの輸入映画に出演した主人公の一人が韓国訪問を希望し、日本側の映画会社から韓国の輸入業者に一方的に来韓日程を知らせてきたとのことだ。韓国の輸入業者の悩みは、韓国を訪問する俳優の日程すべてにかかる費用を負担しなければならぬ上に、費やした経費に見合うほどの広報効果を得られないケースが殆どであるからである。こうした事例とやや異なるが、『二〇世紀少年』の輸入業者は日本映画の韓国内での興行見通しが不透明だったことから、まず一編だけを先に輸入し、その後の興行結果によって二編と三編の輸入を検討する予定だっ

た。しかし、『二〇世紀少年』を扱う日本の映画会社は、単体販売は不可能という原則に固執し、韓国の輸入業者は三編をパッケージで購入せざるを得なくなり大きな失敗につながった。

二〇一一年現在、熱烈な少数のファンを除き、日本映画への関心は薄れている。とは言え、日本映画の輸入が減っている訳ではなく、毎年三〇本前後の作品が韓国で紹介されている。日本映画の輸入自由化が許可された時期と異なり、日本映画に対する関心や需要がますます落ちこんでいる状況のなかで、絶えることなく韓国に輸入されているのは、日本が質の高いコンテンツを生み出す映画の生産国だからである。同じ文化圏に位置し、韓国人の趣向にマッチした映画づくりを行えば、新しい市場が創出され、韓国映画もまた多様な映画製作に取り組み刺激を受けることになる。

今日なお政治・歴史的な問題が横たわり葛藤の続く韓日両国において、映画を通じた韓日両国間の持続的な文化交流は、両国民間の和解や親近感を深める効果が期待できる。そうした意味で、現在の興行成果に関わらず、日本映画の韓国への輸入・紹介は今後も続くものと思われる。

二章 松本清張原作映像作品の

韓国における公開経緯とその反応

韓国における松本清張の認知度は、映画やドラマの場合、小説に比べ極めて低い。松本清張の小説が韓国の出版社を通じて紹介されてきたのに比べ、映画やドラマは特定の作品を除き、ほとんど知られていないのが実情である。この章では、松本清張作品が原作となった映画やドラマの中で、どのような作品が韓国で公開され、また韓国社会でどのように受止められたかを考察する。

二一 映画

韓国で紹介された松本清張原作の映画は、犬童一心監督の『ゼロの焦点』

「シネ21」の評価

氏名	評価点	コメント
キム・ボンソク(映画評論家)	★★★	「強く悪い」女の個性に注目!
ユ・ジナ(映画評論家)	★★★	古いメロドラマだが、興味深い話が所々に散りばめられている。
イ・ヨンチョル(映画評論家)	★★★	61年のバージョンに足を踏み入れた!
パク・ビョンシク(映画評論家)	★★★	メロドラマの鉅脈を探る手法に見応え!

ムービー・ウィークの評価

氏名	評価点	コメント
アン・ヨンウン(取材記者)	★★★★☆	犬童一心の叙情的スリラー

が唯一のものである。松本清張生誕百年を記念して二〇〇九年に制作されたこの映画は、翌二〇一〇年三月二五日に韓国で封切られた。韓国の出版社である「ブックスピア」が二〇〇九年三月に「松本清張傑作短篇コレクション(上・中・下)」を出刊したことから、韓国で松本清張に対する関心が高まり始めた時期で、『ゼロの焦点』の封切りは原作者の認知度を高めることができる絶好の機会でもあった。

『ゼロの焦点』の輸入元、「巨源シネマ」代表の宋源泉氏は一九八〇年代から映画関連事業を営んで来た人物であり、文化的見識の高い彼が『ゼロの焦点』の韓国輸入に踏み切った理由は、彼自身、清張小説の熱烈なファンだったからである。

こうした宋代表の個人的な趣向とは別に、巨源シネマは『ゼロの焦点』が韓国で成功する多くの要素を備え、松本清張の小説に関心をもつ読者を映画に呼び込むことができると判断したようだ。韓国の映画ファンによく知られた犬童一心監督が演出し、韓国でも人気の高い広末涼子や中谷美紀が出演する作品の成功を疑う理由はどこにもなかった。封切り前に行われたマスコミ向けの試写会でも評価が高く、韓国の代表的な映画雑誌「シネ21」においても、下記のように四人の映画評論家が三ツ星の評価を下し、また「ムービー・ウィーク」も三ツ星半を付けるなど、まずまずの評判であった。

「彼女は清算しなければならぬ過去を持たない穢れなき新時代の女

性であり、それと対照的に彼女を取り巻く人たちは暗い過去を背負わざるを得ない状況にある。この映画の主体は敗戦によって自責の念に苦しむ楨子の夫・憲一、そして貧しかった時代、生きるために選択した過去を隠そうとする女・佐知子と彼女を取り巻く人々の物語である。もちろん映画の中で彼女の欲望が遂げられることはない。犬童一心監督は、時代の流れに紛れ自分たちの過ちを埋没させようとする人々を通じて、戦後日本人の暗い自画像を詳細に描き出そうとしている。六ヶ月にわたる撮影、オープンセットの製作など、『ゼロの焦点』は低予算の映画が大部分を占めていた日本映画界において久方ぶりに出会う大作である。⁵

「この作品の悲劇は、互いに違う立場の楨子と佐知子、そして久子、三人の女性が出会うことから始まる。戦争に敗れた日本が国連に加盟し、経済的復興期を迎えた一九五〇年代、戦後世代である三人の女性が、それぞれ異なる痛みを経験するという皮肉な運命をたどり、強い女を演じる広末涼子、優雅でありながらヒステリックな感情にさ迷う中谷美紀など、俳優陣のしっかりした演技は映画の絳情性に加え、ミステリーとしての緊張感を醸し出している。」⁶

こうしたマスコミの好意的な評価のなか、『ゼロの焦点』は二〇一〇年三月二五日、「二五才観覧可」の扱いでワイドリリースされ、全国四〇カ所のスクリーンで封切られた。当時、韓国の映画街では、『グリーンゾーン』、『シャッターアイルランド』、『ふしぎの国のアリス』のようなハリウッドのブロックバスター作品による激戦が予想されていた。『ゼロの焦点』はこれら外国映画の中で唯一の日本映画であったが、結果は不振を極め、ソウル一六カ所のスクリーンで、わずか四、七九八人の観客を動員する程度に止まった。これは巨源シネマやマスコミの好意的な評価と異なり、全く予測外の結果であった。

マスコミの評価が興行成績に影響を及ぼし得ないにしても、封切り一週間でスクリーン数が激減し、ついに二週間持ち堪えることができなかったというのは惨憺たる結果と言えよう。『ゼロの焦点』が韓国の観客にここまでそれほど向かれた理由として、敗戦後の時代的な空気を醸し出すのに重点を置く

あまり、推理的な要素が疎かになった。日本映画特有の淡々とした場面運びが観客を退屈させたことなどが指摘できる。

映画封切り後、観客の反応を的確に把握できる韓国の代表的なポータルサイト「ネイバー (www.naver.com)」に書き込まれた『ゼロフォーカス』に対するネチズンの評価は、これを証明している。「映画の構成が緻密さに欠け、隙が多く明快でない」、「日本の戦後の時代を垣間見ることができ軽いミステリーと受止めればよさそうだ」、「ストーリーの設定はいいが、どうして後ろ向きなのか、新派メロドラマのつもりか」、「スリラーとして見るよりは、日本の近現代史の痛みとして見るべきか?」、「容易く予想ができる結末だったため、観たえない正統ミステリー推理劇」等々。

観客の評価とは別に、巨源シネマは独自に捉えた興行失敗の原因として、日本映画に対する韓国人の認識がもはや以前のようではないという点を上げている。巨源シネマが『ゼロの焦点』の韓国での興行に勝算ありと判断した背景には、映画封切りに合わせて犬童一心監督の訪韓、一部シーンの韓国での撮影など、映画ファンの注目を集めることができる要素がふんだんにあったからだ。しかし結果は失敗に終わった。『ゼロの焦点』という作品自体の良し悪しよりも、もはや日本映画が韓国人にとって魅力的な存在ではなくなった証明なのかもしれない。

二二二 ドラマ

韓国では二〇〇〇年代半ば、所謂、イルド(日ド・日本ドラマの略)として二〇〇四年から二〇〇七年にかけてケーブルテレビ(地上波では日本のドラマの放映が禁止されている)を通じて日本のドラマが堰を切ったように放映された。『踊る大捜査線』(二〇〇四年一月、MBCドラマネット、視聴率〇・六九%)を始め、『ごくせん』(二〇〇四年二月、SBSドラマプラス、視聴率一・一七%)、『二〇一回目プロポーズ』(二〇〇四年四月、MBCドラマネット、視聴率〇・七二%)、『金田一少年の事件簿二』(二〇〇五年一月、MBCドラマネット、視聴率〇・七六%)などが当時人気を集めた作品

である。日本のドラマは韓国ドラマと違い、多様な素材を取りあげるのが特徴であったが、地上波中心の韓国の現状で、ケーブルテレビという制限から視聴率を上げることができなかった。

二〇〇五年以降、イルドの韓国内視聴率は急速に落ち込み始めた。特に韓国では非主流ジャンルとして評価されている推理・ミステリードラマでは、なおさら関心を集めることができなかった。『刑事』(二〇〇六年六月、オンスタイル、視聴率〇・二九%)、『ヒーロー』(二〇〇六年八月、MBCムービーズ、視聴率〇・二六%)、『時効警察』(二〇〇六年十一月、MBCムービーズ、視聴率〇・二二%)など、日本で話題を呼んだ作品であっても、韓国の視聴者からは無視された結果になった。こうした状況下で松本清張の小説を原作にしたドラマは、韓国で紹介される機会を得ることができなかった。しかし、日本のドラマではないが、松本清張の小説を原作にした韓国ドラマが二本放映されたことがある。『通勤列車ラブ』と『霧の旗』である。

(一) 通勤列車ラブ

松本清張の短編小説「たづたづし」が原作となった『通勤列車ラブ』は、二〇〇四年八月一三日、金曜日の夜九時五五分からMBC文化放送の「ベスト劇場」で放映された。当時、放映に先立ち韓国の新聞は次のように紹介している。

「シチャンがイネに出会ったのは通勤列車の中であった。シチャンは内気で寂しげなイネの雰囲気惚れ、愛に渴いていたイネはシチャンを受け入れる。ある日、イネは自分が人妻であり、一週間後に夫が出所すると告白する。シチャンはイネの夫に二人の関係が知られたら、自分の人生は終わるといふ不安感に捕らわれる。」^{*7}

「愛する女性を二度殺そうとする男。シチャンは通勤列車の中で会ったイネの寂しげな雰囲気虜になる。ある日、イネには夫がいて、一週間後に出

所すると告白される。シチャンはイネの夫が二人の関係を知れば自分の将来はないと思いいネを殺害。イネの死体が発見されたという記事が見当たらないことに安堵していたシチャンは、出張から帰って来た仲間から田舎の喫茶店で記憶喪失の女性に会った話を聞き、それがイネであることを直感する。もう一度殺すつもりで喫茶店を尋ねたシチャンは屈託のない陽気な女性に変わった彼女に新たな魅力を感じるのだが・・・」^{*8}

しかし、このドラマに対する評価、或いは原作が松本清張の短編小説「たづたづし」であることは知られていない。また、『通勤列車ラブ』はHDTV (High Definition Television) が注目され始めた時期にHD (High Definition) で製作され、マスコミ媒体を学ぶ学生が論文^{*9}の中で取り上げているが、ストーリーの紹介や登場人物の分析を行う程度に止まり、原作者である松本清張についての言及はない。

(二) 霧の旗

松本清張の同名小説を映像化した『霧の旗』は一九八九年四月一六日、日曜日の夜九時三〇分、MBC文化放送の「ベストセラー劇場」で放映された。このドラマは前出の「通勤列車ラブ」と異なり、放映前、原作者が松本清張であることを明記している。

「原作…松本清張、ユ・インジャは殺人の濡れ衣を着せられた兄の救命活動と弁護を引き受けてくれるよう金弁護士に依頼するが断られる。その後、インジャの兄は一番で死刑判決を受け、控訴の途中獄死。インジャは金弁護士への復讐を決心する。ある日、彼女は偶然にも金弁護士の妻が関わる殺人現場を目撃する。」^{*10}

また、『霧の旗』についてのレビューは放映後の四月一七日、「」持たざる者」の断面を効果的に浮き彫りに・・・」というタイトルで東亜日報に掲載された。

「MBC文化放送が一六日に放映した「ベストセラー劇場―霧の旗―」は、

社会的に名声を得た人物がその名声にすぎり、やがて挫折する過程を通じてその虚実性を明らかにするなど、人間の徹底した復讐劇を描いた作品である。このドラマは、強盗殺人罪の濡れ衣を着せられた兄を必死で助けようとする女主人公と、社会正義のために戦うと言いながら実際は自分の利益のみを追求する弁護士。両者の応酬と、女主人公を純粹だった本来の姿に戻そうとする記者を中心に、社会の不条理や矛盾に激しく抵抗する、言わば、持たざる者の断断を多面的な葛藤の中で効果的に浮き彫りにしている。しかし、このドラマは主人公が弁護士に哀願する場面が長すぎ、その後の復讐を充分に描くことができなかつた。時間配分の問題があり、主人公が復讐を決意するにいたる心理的变化の描写が十分でなく、物足りなさを感じた。^{*11}

三章 韓国で映画化された宮部みゆき作品に対する評価

韓国では二〇一二年三月八日、宮部みゆきの同名小説を映画化したビヨン・ヨンジュ監督の『火車(ファチャ)』が封切られ人気を集めた。宮部みゆきが「社会派ミステリー」のジャンルを切り開いた松本清張の遺産を受継いでいるという点は既によく知られている。こうした点から、韓国における宮部みゆきの評価や映画『火車』に対する韓国映画ファンの反応は、松本清張に対する評価を間接的に知ることができる良い事例である。

三一一 松本清張と宮部みゆき

宮部みゆきは、韓国では度々「松本清張の長女」という表現で紹介される。推理小説を始め、時代小説や歴史小説、古代史研究に至るまで、全方位的に執筆していた清張に比べ、社会派ミステリーに特化している宮部みゆきのスタイルを思えば、必ずしも正しい表現とは言えない。実際、宮部みゆき自身もそのような表現を全面的に納得している訳ではない。「日本でも私の小説が社会派ミステリーという点で、たびたび松本清張と比較されたりします。しかし、松本清張の作品は大変広範囲に渡っており、日本の推理小説史に永遠

に残る作家であると同時に、代表的なノンフィクション作家、日本古代史研究家でもあります。松本清張が広範囲に渡る素材を扱っているとすれば、私は清張の世界の極一部分を共有しているだけです。^{*12}

しかし、その範囲を社会派ミステリーに絞った場合、松本清張と宮部みゆきは直系の系譜と見ることが出来る。二人のミステリーは、通常の推理小説のように殺人を扱う場合が大部分である。しかしながら、事件をストーリーの中心に置いて刺激的に展開して行く手法ではなく、人間本来の生き様を尊重し、何故このような犯罪に至ったのか、混沌とした社会の中で孤軍奮闘する加害者と被害者をはじめ、人間のすべてを理解しようとする思いが強く現れている。このような社会派ミステリー概念を共有する関係を立証するかにように、二〇〇九年、韓国で紹介された「松本清張傑作短篇コレクション」では、宮部みゆきが責任編集を担当。作品を厳選し、解説を加えている。こうした一連の流れから、韓国の推理小説ファンや専門家は宮部みゆき作品のルーツを松本清張に探す傾向が強い。

三一一 韓国での宮部みゆきの人気

韓国の読者は、二〇〇〇年代半ばから日本の推理小説に関心を寄せはじめた。二〇〇〇年代初めにはシャーロックホームズの小説が人気を博し、推理小説やミステリー小説に対する関心が高まった。その流れに乗って日本の推理小説が注目されるようになった。日本の推理小説が韓国ファンを魅了した理由は、韓国の小説に比べて日本の小説が重苦しくなく、ストーリーが多様で面白いからである。韓国の小説は事件に係る人物の内面を通じて社会を省察するが、日本小説は挑発的な事件や果敢に素材を選びだし、心の傷やコンプレックスを抱える人物を登場させ、登場人物の感受性によってストーリーを展開させる場合が多い。それが人々の抱く不安感や寂しさ、痛みへの共感を誘う。しかも、韓国人の情緒が日本人と似ていることも日本の推理小説が根強い人気をもつ理由でもある。

なかでも、宮部みゆきは東野圭吾や奥田秀雄らと共に、「日本推理小説の

ビッグ三」と言われ、韓国で最も人気の高い推理小説作家である。そうした人気を反映するかのようには、韓国の読者は、宮部みゆきの苗字と名前の「み」を取って「ミミ女史」という愛称で呼んでいる。社会が個人に及ぼす影響に高い関心を持ち、社会システムの矛盾を小説の構造を借りて、人間に対する愛情を表現する独特な叙述は、宮部みゆき小説の醍醐味でもある。特に、韓国のように右派と左派が明確に分かれ、互いの非難に終始する社会、日々、社会が冷やかになりつつある今日、宮部みゆきが見せてくれる人間の温もりが滲む作品は、韓国の読者を引き付けるのに十分な魅力をもっている。

「ミミ女史」に対する韓国での人気が高まるにつれ、韓国の各映画会社は競って彼女の作品を映画化しようと動きはじめた。宮部みゆきの作品を映画化するため韓国の映画会社が版權を獲得したのは、「火車」、「スナーク狩り」、「ステップファーズ・ステップ」などである。なかでも、「火車」は既に映画化され、韓国で上々の興行成績を収め、「スナーク狩り」は『女子高怪談』、二番目のストーリー（一九九〇年）のミン・ギドン監督が演出を担当する予定でシナリオは既に完成しているようだ。まだ版權交渉が成立したわけではないが、「魔術はささやく」、「レベル七」、「模倣犯」、「龍は眠る」、「名前もなき毒」など、時代小説を除くほとんどの現代小説が韓国の映画会社から注目されている。

三二二 映画『火車』はどのように作られたか

版權をめぐる交渉が成立した三篇の小説の内、韓国で最も早く映画化された宮部みゆき原作の映画が『火車』である。この作品を演出したビョン・ヨンジュ監督は、従軍慰安婦の話を取り上げたドキュメンタリー『低い声（一九九五年）』で独立系映画を代表する監督になった後、家庭主婦の危険な愛を扱った『密愛（二〇〇二年）』、バレエに魅せられた男子学生が登場する『バレエ教室所（二〇〇四年）』を手掛けるなど推理映画とは縁遠い監督であった。ただ『密愛』と『バレエ教室所』の興行不振で、ビョン監督自身、変化を求めている。そうした時期に「火車」を読み、大衆に広く浸透する推理小

説の魅力に捕りつかれたようだ。その時偶然、『火車』演出の提案があり、ビョン監督は二つ返事でこれを承諾した。

映画『火車』は小説の基本的な設定をそのまま踏襲し、過去を清算して新しい人生を生きようとする一人の女性が、信用不良と個人破産によって身を隠しながら没落していく過程を追っている。

ただ原作の中の関根祥子・新城喬子がキョンソン・ソンヨン（キム・ミンヒ）に、彼女の婚約者・栗坂和也がムンホ（イ・ソンギョン）に、関根祥子の行方を追う刑事・本間俊介がジョングン（ジョ・ソンハ）に、それぞれ韓国の名前に変え、彼らの役割にも韓国的な状況が反映されている。小説で前半に少し登場する和也の役割を映画では大幅に増やし、休職中の本間は不名誉な事件によって職を追われた元刑事に、また小説の中で本間を助ける彰子の幼なじみのオートバイ整備工・保は映画の中では登場しない。

他人の身分を盗用するキョンソンの役割は変わりないが、ビョン監督は原作と異なり、観客が彼女に同情心を抱かないようにすることに演出の重点を置いている。小説が伝えるメッセージ、つまり、自分の過ちではなく社会の仕組みがそのように仕向けた。社会に責任転嫁すべきといったメッセージは、今の韓国に蔓延しているからである。そのため「己の欲望を満たすため、ソンの韓国に殺した者がキョンソンである事実を印象付けることが重要だった」とビョン監督は語る。観客がキョンソンに同情するのは仕方ないが、映画の中で同情心を誘導すれば、作品の完成度を損ねることになるという判断からであった。このように、原作と異なるコンセプトで映画化をするため、ビョン・ヨンジュ監督はシナリオを二〇回も書直したと言う。

三二四 映画『火車』に対する韓国民の反応

『火車』は、二〇〇二年三月八日、一五歳観覧可能等級付映画として全国五六カ所の劇場で上映された。封切りと同時に、ボックス・オフィス（KOBIS:Korea Box office Information System）で二週連続一位を占める一方、一カ月間で二四〇万人の観客動員を記録し、興行的に成功した。宮

部みゆきの原作、イ・ソンギョンやキム・ミンヒなど人気俳優陣の熱演が観客を集めた要因と評価された。マスコミの評価も『火車』について比較的好意的だったため、試写会直後に盛況を予想する者も多かった。『火車』が人気を博したことで、カード破産や借金に苦しむ被害者の事例を取り上げて映画を語る論評も少なからず見られるようになった。それほどに、『火車』は劇場での興行のみならず、社会的にも波紋を投げかけ、韓国社会にカード破産や借金被害に対する警鐘を鳴らす効果をもたらした。『火車』に対する各批評家の評価は次の通りである。

評価者	評価	意見
シネ21	★★★★★	
カン・ビョンジン(記者)	★★★	韓国の時間に合わせて来た女、だからすでに知っている女
イ・ジュヒョン(記者)	★★★★	本当の恐怖を体験したければ・・・
イ・ヨンチョル(映画評論家)	★★★★	同情の対象となった風変りな悪女
ファン・ジンミ(映画評論家)	★★★★	信用社会に殺害された後、社会的に宿主を探してさまよう女鬼

「観客はムンホ同様、最初は戸惑いに包まれ、次第に恐ろしい現実を体験

するようになる。『火車』を取り巻く薄気味悪い空気は、同情することも、邪悪な化け物と責めたてることも出来ないチャ・ギョソンという女から醸し出される。神秘を秘めた俳優キム・ミンヒの演技は光っている。映画館を出てもその薄気味悪さが付きまとう。怖い話を聞かせたかったというビョン・ヨンジュ監督の意図は成功したようだ。」^{*13}

「脚色という点で見れば、映画『火車』は優れていると言える。時間と空間を適切に変え、論理的な流れもうまく導き出されていた。何より主人公を婚約者にする事で、消えた女の話により切実にムンホの立場を描いた。『火車』の中の恋愛は単純な愛の話ではなく、二人の深い愛憎の交流という点で共感できる。しかし、ソンヨンが子供の死を境に変わり、死ぬ瞬間、ムンホとの思い出を回想する時、何かが食い違ってしまう。竜山駅でムンホとソンヨンが再会し、彼女が死ぬまでの場面は激しく揺れ動く。彼女

により多くの愛情を傾けてやりたかったことは理解できるが、その選択が彼女を苛酷な運命の犠牲者にしてしまう。あまりにも可哀想な新派劇の女に・・・」^{*14}

「小説の手法ではない自分らしい映画の手法で話を紡いで行きたかったと、演出について語るビョン・ヨンジュ監督は、興味深く面白い素材を台無しにする過ちを犯さなかった。原作小説の深みを韓国社会に移し、見事に変換した手腕はただ者ではない。ゆっくりとした呼吸で話を導く監督の演出は、観客に息詰まるような緊張感をもたらす。音楽もほとんどなく、冷たい都市の風景はそれだけで物語になる。技巧に頼らない正確な描写、俳優の力を引き出す演出、強烈な映像、精巧な編集が一体となった良質な映画の仲間入りを果たした。」^{*15}

四章 韓国の若者は清張作品をどのように受け止めたか

韓国において映画化或いはドラマ化された清張作品は極めて少なく、二〇一〇年三月に韓国で封切られた犬童一心監督の『ゼロの焦点』も興行的に成功したとは言い難い。こうした背景には、それまで日本の大衆文化、特に映画やドラマなど、映像物の韓国流入を厳しく制限してきた韓国政府の方針が影響したものと考えられる。一九九八年以降、韓国では段階的に日本の大衆文化を開放してきたが、韓国の映画・映像産業の育成に甚大な悪影響を及ぼさない範囲で慎重に実施されてきた。

もし、清張作品をモチーフにした多くの映画やドラマが七〇年代の韓国で上映されていたならば、その反応はどうであっただろうか。韓国に於ける清張作品の根強い人気、或いは松本清張を師と仰ぐ宮部みゆきの作品が韓国で映画化され、興行的に成功を取った状況からして、韓国社会に大きなインパクトを与えたであろうことが想像できる。

そこで、韓国の大学生を対象に、一九七四年に日本で公開された野村芳太郎監督の『砂の器』と犬童一心監督の『ゼロの焦点』の試写会を行ない、下記の要領でアンケート調査を実施した。

四一 アンケート調査について

(一) アンケート調査の期間・対象者

調査実施期間：二〇一一年二月二〇日～二〇一二年三月二〇日

調査対象者数：韓国の大学・大学院生一六〇名(内：有効回答数一五七名)

回答率九八・一%

調査実施大学：韓国内の六大学(ソウル、江原道)

上映作品：「ゼロの焦点」		有効回答数：137名	
学校名(所在地)	実施対象者	回答数	実施期間
国立江原大学校(江原道・春川市)	2～4年生	15名	2011年12月20日 ～2012年3月20日
ハンソン大学校(ソウル)	1～4年生	53名	
ソウル外国語大学校通訳翻訳大学院(ソウル)	1～2年生	20名	
梨花女子大学校通訳翻訳大学院(ソウル)	1～2年生	10名	
ソナム大学校通訳翻訳大学院(ソウル)	1～2年生	14名	
中央大学校国際大学院(韓中通訳翻訳課程)(ソウル)	1～2年生	25名	

上映作品：「砂の器」		有効回答数：20名	
学校名(所在地)	実施対象者	回答数	実施期間
ソウル外国語大学校通訳翻訳大学院(ソウル)	1～2年生	13名	2011年12月20日 ～2012年3月20日
ソナム大学校通訳翻訳大学院(ソウル)	1～2年生	7名	

(二) アンケート調査の内容(資料一)

問一・松本清張という作家をご存じですか。 はい いいえ

※知っているか答えられた方への質問

① 松本清張という作家をどのように認識/評価していますか…

② 読んだことのある作品のタイトルは何ですか…

③ その作品を読んだ感想は…

④ その作品にはどのようにして出会いましたか…

(例：大学図書館、自分で購入、先生の紹介など) …

問二・映画『ゼロの焦点』または『砂の器』を知っていましたか。

はい いいえ

※知っていたか答えられた方への質問

① どのような方法で知りましたか。(例：インターネット、テレビ、雑誌など) …

問三・映画『ゼロの焦点』または『砂の器』は面白かったですか。

はい いいえ

① その理由を教えてください…

② そのほかに感想は…

問四・『ゼロの焦点』または『砂の器』を観て原作者、松本清張の作品を読んで見たいと思いませんか。

はい いいえ

問五・『ゼロの焦点』または『砂の器』を観て、作品の時代的背景や日本文化について理解できましたか。

はい いいえ

① どの点が理解し易かったのか、または理解できなかった点を教えてください…

問六・上記二作品の他に松本清張原作の映画やドラマを観たことがありますか。

はい いいえ

(韓国のテレビ等で放映された『通勤列車ラブ』や『霧の旗』などのドラマを含む)

※観たことがあるか答えられた方への質問

はい いいえ

※観たことがあるか答えられた方への質問

※観たことがあるか答えられた方への質問

① どんな作品を観ましたか。(作品名：)

② 媒体は何ですか。(例：テレビ、ビデオ、DVD、インターネットなど)：

(二) アンケート調査の結果

(二) ー ー 『ゼロの焦点』鑑賞者の回答

問一・松本清張という作家をご存じですか。

はい：一一名　　いいえ：一二六名

問二・映画『ゼロの焦点』を知っていましたか。

はい：二三名　　いいえ：一一四名

問三・映画『ゼロの焦点』は面白かったですか。

はい：八一名　　いいえ：五六名

① ー ー 「面白かった」理由：

・ ミステリーの要素が生きている。(一七名)

・ 日本映画特有の雰囲気と俳優の演技力(七名)

・ 時代的背景を描き、日本の一面を知った。(六名)

・ 広末涼子のファン(六名)

・ ストーリーの面白さ(五名)

・ 女性初の議員を対象とするなど、ストーリーの新鮮さ

・ 舞台となった金沢の景色や方言が印象的。「パンパンガール」、日本が

アメリカの支配下にあった時代、女性たちの生き抜くために避けられ

なかった状況を知り複雑な気持ちになった。ストーリーは貞子を除く

すべての人が死ぬという悲劇に終わり、胸が痛んだ。幸子の夫には心

から感動した。妻を庇い自殺したが、本当に愛さなければできないこ

とであり、カッコイイ。

・ 推理物が与える緊張感、全編を通してなぜ?という疑問を抱かせるこ
とに成功していた。残忍な場面に焦点を合わせた洋画と異なり、感性

によって内容を展開する部分が興味を引いた。

・ 個人的に戦後の時代に関心があり、映画の中の殺人の動機がこの時代
と深く関わっているので興味深い。

・ 以前から淡々とした中に起承転結がある日本的なシナリオが好きだっ
た。この推理映画のなかにもこのような日本的な色がにじみ出ていた。

・ 過去を隠し、新しい人生を渴望する主人公たちの心理、人間関係が絡
まり面白い。

・ 話の構成がしっかりしていた。映画の時間的制限の中に内容を収めよ
うとすると、因果関係が十分描けず分かりにくい部分があるが、原作
にはきつと論理的なストーリーの展開があるはず。日本の映画は日本

特有の色合いが強すぎる。例えば、細かさ、可愛い、幼稚、マニアッ
クと言った先人観があるが、この作品からはこれらの点はあまり感じ
られない。個人の将来や目的のために殺人を犯しているが、その結果、

「女性の権利の向上」と言う成果を得ると言う点をどう受止めるべき
か悩ましい。憲一が事実を漏らす可能性があると言う不確実性を、完

全犯罪によって確実に取除いた点は、女性候補の当選、今後の女性の
地位や権利の向上に肯定的に作用したに違いない。個人的には、倫理

や道徳的な観点と公的利益の観点が衝突する場面に直面するとこれを
避けてしまう方だ。これらの物事に対し、判断を下すのは極めて難し

い。

・ 殺人を犯すことは余りにも残忍かつ非人間的な行動ではあるが、これ
も「弱い人間だから」と言う映画のメッセージを読み取り、一方では理

解できるが、胸が痛んだ。

・ 映画の構成が時間軸ではなく、事件の糸口を中心に一つずつ展開され、
最後まで緊張感を保っている。

・ 退屈させない展開、次々と疑問を生むストーリーに引き込まれる。
・ 推理小説を読んでいるようで、興味深く、時代背景も理解し易かった。

・ 俳優たちの優れた演技力によって映画により引込まれた。

①「面白くなかった」理由…

- ・映画のテンポが遅すぎて退屈した。(一四名)
- ・構成がしっかりしていて、客観的にいい内容ではあるものの、二度観たい映画ではない。
- ・連鎖殺人事件と言う十分興味をそそる素材、大物俳優のキャストイングにも関わらず、終始一貫、淡々とした展開が退屈だった。
- ・ミステリーを期待したが、人間の本能を深く探る内容になっていった。
- ・映画からのメッセージが多すぎる上に全般的に暗い雰囲気。
- ・長く複雑なストーリーに比べ、インパクトがなく間延び、展開のメリハリに欠ける。
- ・この映画の前半は理解し難い複雑さが目立ち、後半はむなしい結末であつた。

② そのほかに感想は…

- ・社会の片隅、疎外された人間の内面を描き、考えさせられる機会になつた。
- ・ミステリーと言うより歴史的な悲劇を背景とした新派に近い。映画の中の波が印象的だった。
- ・原作の細やかなニュアンスを十分活かし切れてない。不足部分を映像美が補っている。
- ・主人公が子供時代、弟に対し、「これから私が母親であり、父親でもある」と語る場面が感動的だった。男女平等の時代を渴望していた女性たちが最後まであきらめず、夫が身代わりになって自殺を図るということも支持者がいることを示唆している。推理映画ではあるが、時代背景が詳しく描かれていた。
- ・第二次世界大戦後という時代背景が人物たちの置かれた状況を、より劇的に見せる役割をしているようだ。例えば、憲一は米軍の支配下では刑事であり、娼婦と同棲する一方、一般女性と結婚している。これらの状況を通して時代の雰囲気を色濃く投影し、人物をより劇的に

表現している。

- ・推理物であることを考慮すると、作品の中に隠された装置が多少物足りなく、後半になるにつれ緊張感が緩み、退屈させる。今日の女性の声と映画の中の女性たちの状況と比較したとき、果たしてどれほど変わって来ただろうかと考えさせられる。
- ・単純なミステリー映画ではない時代的背景や、女主人公たちの数奇な運命を取りあげた内容だったため、多くのことを考えさせられる映画だった。
- ・映画全体の雰囲気が暗く、個人的な好みではないが、ストーリーの展開がしっかりしているので新しい見方が出来るようになった。
- ・ストーリーが俳優の演技やセリフに頼って進められたため、事件と関連する背景の説明や事件当時の人物がなぜそうするかなかったのか、感情説明が不足している。小説の中にはこれらの点が詳細に描かれているはずだが、これらを十分表現できない映画の限界を感じる。
- ・皮肉なことだが、日本の映画の多くが名作小説の映画化にことごとく失敗している。こうした点からも原作にかける期待は大きい。
- ・女主人公の心理描写に偏りすぎている。松本社長が幸子^{マツモト}を庇うために自殺をするまでの心理的变化、なぜなのか知りたい。映画の前半では工場の職員を殴打し、セクハラ発言を躊躇わなかった人物が、なぜ急に娼婦出身の妻を庇い、自身の生を放棄する純情派に変貌したのか理解できない。
- ・女主人公(広末涼子)は、思っていた典型的な日本女性のイメージ(外柔内剛)とほぼ一致していた。
- ・映画を観て、私自身も忘れたい過去から逃れようと苦しんだことがあったらどうかと思った。
- ・一時、夢中になって読んでいたアガサ・クリステイ、コナン・ドイル、モーリス・ルブランの推理小説のように、一つの事件を掘下げて行くものとは異なり、社会的な現象、時代背景を反映した内容となっているのが新鮮だった。しかし、胸のどこかが塞がるような後味、面

白かったけれど、もう一度観たいと思わない映画である。

・殺人の場面は、恐怖映画のように恐ろしく描かれていないが、人間の本能を描いているせい、苦い後味と人間に対する信頼が崩れてしまっただ。

・映画の前半までかなり引き付けられた。残念なのは、主人公（貞子）が事件の顛末を紐解く過程が詳細に描かれていないこと、即ち、夫を殺した人が幸子であることをどうしてわかったのか、どうして久子が犯人ではなく、幸子だと思ったのか、夫の兄が幸子に殺された事実をどうやって知り得たのかについての説明が描かれてない。貞子が事件の真相に迫る過程や心理描写をもう少し詳細に描いてほしかった。

・価値観が違う二人の女性が、それぞれ自分のやり方で人生を切り開いて行こうとする映画の骨格は悪くないが、露骨に女性の一方に肩入れしているようですっきりしない。俳優の演技も作品の感情表現をするには力不足だった。

・映画の内容が戦後の時代を描いているため、韓国人の立場では違和感もある。日韓間の古い感情のせい、映画の中の経済発展の場面も否定的に見えて来る。

・国籍を考えずに見た方がむしろ気が楽。背景についての知識が乏しいため理解しにくい。

問四・『ゼロの焦点』を観て原作者、松本清張の作品を読んで見たいと思
いましたか。

はい…六四名 いいえ…七三名

問五・『ゼロの焦点』を観て、映画や小説の時代的背景、日本文化について理解できましたか。

はい…九六名 いいえ…四一名

- ①どんな点が理解し易かったか、また理解できなかった点はなにか。
- ・当時の女性の地位、社会状況について知ることができた。
 - ・三人の女性の生き方を通じて敗戦後の日本の様子を知る。
 - ・戦後の日本の姿、女性に対する認識、女性が夢見る未来や希望などを

理解できた。

・当時の日本を知ることが出来た。敗戦後の状況を被害者のように描いている部分は、韓国人として違和感を覚える。

・厳しい時代を生き抜こうとする主人公たちの姿、殺人事件と推理を織り交ぜたストーリーがよかった。

・常に戦争の加害者であると思っていた日本、しかし、その中に生きた人々を通してもう一つの日本の姿を見た。

・日本初の女性市長の誕生、主人公が新しい人生を生きようとする姿を通して、五〇年代前後の日本人が戦争の傷から立ち直り、新しい時代を渴望していたことを理解することができた。しかし、主人公らはそれぞれ悲劇的な結末を迎えることとなり、彼らが望んでいた未来は訪れなかったことを知る。

・敗戦後の日本人の痛みをうまく表現していた。韓国も戦争の傷を抱え、容易に共感することが出来た。

・韓国の八〇〜九〇年代の姿と重なり、理解することができた。

・多少難解な部分もあったが、映画の構成、展開に沿って集中することができた。

・戦争の痛み、女性たちの複雑な心理を理解することができた。

・戦後日本の社会、米軍の影響力、フェミニズムの芽生えなどを理解することができた。

・戦後日本の状況、「パンパンガール」の実態、無力となった男たちの様子を知ることができた。

・戦争の後遺症に苦しみながらも新しい時代、新しい生き方を渴望していた五〇年代の日本人・女性たちを理解することができた。夫についてほとんど知らないまま、親の意向に従って結婚をする主人公を見て、今とは随分違うと感じる。

・小説とは異なり、映画は時間的な制約があるため、断片的な情報だけでは十分な理解が難しい。

・時代の背景について十分な説明がなく、短いセリフだけでは理解でき

ない部分が多いが、女性の地位については理解することができた。

- ・現象は理解できるが、背景にある深い部分を知りたい。
- ・ミステリーの部分に重点を置いたあまり、時代的な背景や日本の文化を映し出す空間が足りなかったようだ。韓国の林権澤監督の『娼』を思い出すが、時代に翻弄された女性の話を別の角度で描いたかのようだ。

・戦後日本の復興の過程にある社会の姿は朝鮮戦争後の韓国の社会と似ていて、共感を覚える。

- ・時代や文化が異なるとしても愛や欲望についての受止め方は似ている。
- ・時代的背景は容易に理解できた。韓国に苦難を強いる側にあった日本が、被害者として描かれているのが納得できなかった。しかし、もう少し広い視野で見れば、戦争において真の勝者はいないはずだ。共に被害者であり、残酷に殺人を犯すしかなかった当時の軍人は加害者であると同時に被害者であるという観点で見れば、映画の中の日本の時代背景を容易に理解することもできた。戦後の混乱の中の日本、心に傷を負って生きて行く人間同士の葛藤、彼らが望む新しい世界、日本の経済成長、新しい世の中が現実になる。このような時代的背景が見えてくると同時に、失われた二〇年もこのように乗り越えようとするメッセージを感じ取ることができた。日本文化を理解することも難しいことではなかった。韓国にはパンパンガールのような在韓米軍を相手とする娼婦、「洋公主」と呼ばれる存在がいる。今も在韓米軍の破廉恥な行動は続いている一方、女性の権利を主張する声も今なお存在するからだ。しかし、強烈なカリスマ性を備え、野望あふれる煙瓦工場の社長が自決する場面は、韓国人には理解できない部分でもある。サムライ精神と関連があるのだろうか。
- ・映画を通じて戦後の日本の実像に触れることができた。しかし、一部の場面では日本自身が世界大戦の被害者のように描かれ、少しいやな気もした。

・敗戦後の日本人の敗北感と喪失感、女性の地位、敗戦後の日本人の新

しい時代への渴望、日本の敗戦後の時代背景を描いたストーリーであることを知っていたので、理解しやすかった。

- ・時代的背景を表す描写が多く、理解し易かった。
- ・背景や環境が韓国の時代劇のキャラクターと似ていて理解しやすい。聡明だが従順な女性、過去を隠したい女性、ただ善良な女性のキャラクターは心情的に馴染み深いものである。

・韓国の時代劇と似ていて理解し易かった。韓国には「洋公主」と言う存在がいるが、日本にも同じ女性たちがいたことをこの映画を通じて初めて知った。服装、工場、女性政治家の登場などを通して、あの時代の雰囲気を感じ取ることができた。

・戦争の廃墟の中で女性たちが生きて行くことの厳しさを、「パンパンガール」と言う素材を通して表現したようだ。

・戦後の経済状況、女性の人権や地位、当時の上流階級の生活などを理解できた。

・戦後、日本の高度経済成長の過程における人間像を映し出して、時代背景は理解できたが、所々見られる日本人特有の文化は理解しにくい部分もあった。

・女性解放運動は日本だけでなく韓国も体験していることなので、時代的背景を理解する上で障害はなかった。

・全体的な色調や雰囲気から、あの時代の日本について知ることができた。

・日本の時代的背景や文化について深く理解するのは難しいが、戦後のあの時期、女性が感じていた痛みや女性に対する社会の認識、女性が議員に当選する時代への変化などを通して日本の一面を理解することができた。

・日本の戦後、社会がどのように変化し、その中で人間がどのように変わって行ったのか、少し分かったような気がした。人間は社会的な動物であることを改めて感じた。

・映画を通して日本の戦後の状況を垣間見ることができ、勉強になった。

映画の前半、ブロック工場で社長が職員にひどく当たる場面を見て、戦後の経済成長の過程でなんでも許されてしまう社会、どこか焦っていて、人々の暗い気持ち伝わってきた。登場人物たちはみな、早く大人になることを駆り立てられている子供のように頼りなく、不安気に見えた。

・第二次大戦後の経済・社会の変化、人々の認識の変化などを映像でみることによって、より理解し易かった。

・時代や文化が違って、愛と欲望に対する理解は国を超えて同じであると思う。

・戦後日本の背景、特に女性たちがどのように新しい人生を生きようとしたかを少し理解することができた。

・映画を通じて米軍統治下の日本の状況や、五〇年代後半、戦争の廃墟から立ち上がり、経済成長を遂げた日本社会の姿を見ることができた。金沢市補欠選挙の場面を通して、当時の日本女性の社会的地位や女性の社会参加に対する一般的な認識がどうかを少しわかったような気がした。しかし、小説を映画化する過程で省略されたであろうと思われる詳細な背景説明が不足している点が残念だった。

・日本文化と言うよりも、時代的背景について理解することができた。登場人物たちの戦争による心の傷や過去を消し去りたいと思う欲望からおこる一連の事件を扱っているからだ。しかし、戦争の被害者だった韓国人として、この映画の中では明らかにされない事実、被害者としてのみ描かれる日本人の姿を穏やかな気持ちで観ることができなかった。

・この映画を通じて戦後の日本社会の特徴について、二つの点を知ることが出来た。久子が自身の過去、「パンパンガール」だった事実を隠すために殺人を犯す事実を通して一九五〇年代前後、日本でも嘗ての韓国のように、在韓米軍が駐屯して大きな影響力を持っていたことや、多くの人々が生活のために米軍と関わっていたこと。もう一つは市長選挙など、当時の女性が政治家を目指すことは大変珍しいことである

という点である。

・当時の状況を映画の中に再現しようと力を注いだので、時代的背景を理解することができた。落着いた雰囲気、街の再現など、知らなかった日本の文化を少し理解できたような気がする。

・一九四五年、敗戦後の日本の状況について知る由もなかったが、映画を通して当時の実情を知る機会となった。

・日本の歴史に関心がなかったので全く知らなかったが、終戦後、日本が経験した社会の様々な事柄は韓国の経験と重なる部分も多く、日本も同じ苦しみを味わったことを理解することができた。

問六・『ゼロの焦点』の他に松本清張原作の映画やドラマを観たことがありますか。

はい…〇名 いいえ…一三七名

(三) 一 二 『砂の器』鑑賞者の回答

問一・松本清張という作家をご存じですか。

はい…八名 いいえ…一二名

問二・映画『砂の器』を知っていましたか。

はい…四名 いいえ…一六名

問三・映画『砂の器』は面白かったですか。

はい…一二名 いいえ…八名

① 一 「面白かった」理由…

・日本の時代の様子が描かれ、現代ものとは異なる面白さがある。

・少し古い映画だが、ストーリーがしっかりしていて、反転の面白さもあった。

・私が生まれる前に作られた映画を通じて、今の世代が知らない七〇年代の情緒を感じることが出来、話の展開も興味深かった。

・ストーリーの設定が面白かった。

・味のある演技や描写、日本列島を旅する気分、複雑な人間関係、答え

を探す面白さ、想像力を掻き立てる推理が面白かった。

・人間の宿命について考えさせられる作品。犯人を推理していく過程が興味深かった。

・全く見えなかった事件の糸口を予想外の所から一つずつ掴む展開が面白かった。

・人間の運命や葛藤、矛盾などが重厚に扱われ、記憶に残る。

・日本の様々な方言を聞くことができてよかった。

・単純な推理ものと思っていたが、事件を追う刑事と共に事件に迫る過程が興味を引き付けた。なぜ殺人を犯す他なかったのか、単純な理由ではなく、親子が旅をする場面は感動的だった。

・ストーリーや展開手法が興味を引き、集中することができた。

①「面白くなかった」理由

・希望的な内容で、静かな感動を与える映画ではあるが、暗さが目立った。

・ストーリーの展開が突然だったり、飛躍し過ぎて前後の関連性の希薄な部分が多く見られた。

・犯罪、捜査ものが好きではない。自己中心的な容疑者や周辺人物に共感できず、息苦しさを感じた。

・ストーリーの展開が平坦で映画は面白くないが、小説は読んで見たいと思った。

② そのほかに感想は…

・主人公の子供時代の場面には心打たれた。しかし、言葉が十分理解できなかつたので、なぜ主人公が捜査を殺したのか、子供の時、なぜ捜査の家を出たのか理解できなかつた。捜査が主人公の名前を呼びながら探すところを、なぜ主人公は涙を流し、隠れて眺めていたのか知りたい。砂の器の意味するところは？疑問は尽きない。映画には原作が省略された部分が多いと思うので、原作を読んで見たいと思った。

・主人公がオーケストラを指揮する部分が必要以上長く、退屈だった。

・日本の多様なジャンルを体験する機会となった。

・音楽、映像、内容など、感動的な部分があり、よかった。

・全体的な流れがスムーズだったため映画に集中することができた。当時の社会状況について字幕説明があったので内容への理解をさらに深めることができた。

・一人の人間の欲望や内面を詳細に描いた作品で、少し退屈する部分はあるが、興味深く鑑賞することができた。

・古い作品なので、映像の面で現在の作品との違いがあった。

・時代的な背景がうまく描かれた映画であると思った。

・当時の日本の文化に間接的に触れ、面白かった。

・方言の特徴、地域の特異性に至るまで、事件の糸口を探すのに使われる緻密な事前調査が映画の説得力を増す結果を生んでいた。様々な形の愛、人間愛、憎悪など、ゆったりとした時間感覚が優れていました。映像が美しく、カメラの角度や構図が多様で退屈しませんでした。音楽が感情をうまく浮き彫りにし、アナログ的なオーケストラ音楽は安心して楽しむことができました。

・最後の回想の部分が長すぎて退屈した。

・映画が面白かったので、二〇〇四年に制作されたりメードドラマも探して観たいと思った。

・推理小説や漫画などを読んでいつも感じることは殺人の動機は非常に単純であるケースが多い。

・ストーリーの展開が大部分回想となっているところが面白い。

問四・『砂の器』を観て原作者、松本清張の作品を読んで見たいと思いましたが。

はい…二名 いいえ…八名

問五・『砂の器』を観て、映画や小説の時代的背景、日本文化について理解できましたか。

はい…一四名 いいえ…六名

(4)-1 作家・松本清張の認知度 (問1・問4から)

知っている：12.1%(19名)	知らない：87.9%(138名)
清張作品を読んでみたい：48.4%(76名)	清張作品を読みたいと思わない：51.6%(81名)

大学生 (4)-2 松本清張原作の映画に対する評価 (問6・問3から)

清張原作の映像物を見たことがある：0.2%(3名)	清張原作の映像物を見たことがない：98%(154名)
清張原作の映画は面白かった：59.2%(93名)	清張原作の映画は面白くなかった：40.8%(64名)

(4)-3 二つの映像作品を観て感じたことは何か (問5から)

日本文化や時代背景が理解できた：70%(110名)	理解できなかった：30%(49名)
---------------------------	-------------------

試写会後に実施したアンケート調査の結果集計は以下の通りである。

(四) アンケート調査の集計と考察

(四) 1-1 作家・松本清張の認知度 (問1・問4から)

作家・松本清張の認知度を調べた結果、回答者(一五七名)の内、一九名(一二・一%)が知っているとの回答であった。この数値を見る限り、清張の認知度は低い。しかし、松本清張が既に生誕百年を過ぎた故人であり、現在活躍中の人気作家ではなく、韓国に於いて『宮部みゆき責任編集・松本清張傑作短篇コレクション』が出版されたことで、韓国の若年層の目に留まり始めた点を考慮すれば、決して低い数値ではない。アンケート調査の回答者は必ずしも日本に関心を持つ学生ばかりではなかったが、試写会後、全体の四八・四%(七六名)が「清張作品を読みたい」と回答している。

(四) 1-2 松本清張原作の映画に対する評価 (問六・問三から)

これまでに、松本清張原作の映画やドラマを観たことがあると答えた学生は回答者全体の〇・二%であった。小・中学生の頃に盛んに日本のアニメを観た世代にとって、清張原作の映画やドラマに接する機会は無に等し

かったようだ。観たことがあると答えた三名の回答者についても、韓国語字幕なしで「砂の器」が鑑賞できるほど日本語に精通し、日本文化への関心が高かったため観る機会に恵まれたと思われる。清張ファンが多いと言われる韓国において、映像化された清張作品は「希少な存在」であったことがうかがえる。

しかし、韓国での興行が振るわなかった『ゼロの焦点』を観た大学生の反応は、全体の五九・一%(八一名)が「面白かった」と答えた。その理由として、「ミステリーの要素が生きている」、「日本映画特有の雰囲気と俳優の演技力」、「描かれた時代背景から日本の一面を知った」などの指摘が多く、作品に対する感想として、前掲(十四・十五頁)のような意見が寄せられた。主なものを再掲する

- ・ 推理物を与える緊張感、全編を通してなぜ?という疑問を抱かせることに成功していた。残忍な場面に焦点を合わせた洋画と異なり、感性によって内容を展開する部分に興味を感じた。
- ・ 以前から、淡々とした中に起承転結のある日本的なシナリオが好きだった。この推理映画のなかにもこうした日本の色彩がにじみ出ている。
- ・ 過去を隠し、新しい人生を渴望する主人公たちの心理や人間関係が絡まり面白かった。
- ・ 殺人を犯すことは余りにも残忍かつ非人間的な行動であるが、これも「弱い人間だから」と言う映画のメッセージを読み取り、理解できる反面、胸が痛んだ。
- ・ 映画の構成が時間軸ではなく、事件の糸口を一つずつ展開され、最後まで緊張感を保っていた。
- また、「面白くなかった」理由としては、「映画のテンポが遅すぎて退屈した」との意見が多く、以下のような指摘がなされた。
- ・ ミステリーを期待したが、人間の本能を深く探る内容だった。
- ・ 映画からのメッセージが多すぎる上に全般的に暗い雰囲気だった。
- ・ 長く複雑なストーリーに比べ、インパクトがなく、間延びして展開のメリハリに欠けていた。

・この映画の前半は理解し難い複雑さが目立ち、後半はむなしい結末であった。

一方、字幕なしの『砂の器』を観た大学生の反応は、鑑賞者の六〇%（一二名）が「面白かった」と答え、その理由として、前掲（十八頁）のような意見を書いている。主なものを再掲する。

・ストーリーの設定が面白かった。

・人間の宿命について考えさせられる作品で、犯人を推理していく過程が興味深かった。

・全く見えなかった事件の糸口を予想外の所から一つずつ掴んでいく展開が面白かった。

・人間の運命や葛藤、矛盾などが重厚に扱われ、記憶に残った。

・単純な推理ものと思っていたが、事件を追う刑事と共に事件に迫る過程が興味を引いた。なぜ殺人を犯す他なかったのか、単純な理由ではなく、親子が旅をする場面も感動的だった。

また、「面白くなかった」理由として、次の点を挙げている。

・希望的な内容で、静かな感動を与える映画ではあるが、暗さが目立った。

・自己中心的な容疑者や周辺人物に共感できず、息苦しさを感じた。

・ストーリーの展開が平坦で映画は面白くないが、小説は読んで見たいと思った。

(四) 一三 二一つの映像作品を観て感じたことは何か(問五から)

次に、「ゼロの焦点」や「砂の器」で描かれた日本の時代背景や文化、また当時の日本人の考え方が理解できたかとの設問には、鑑賞した学生の七〇%（一一〇名）が「理解できた」と答えている。

「ゼロの焦点」を観た学生の感想や意見を抜粋すると以下の通りである。

・三人の女性の生き方を通じて敗戦後の日本の様子を知った。

・戦後の日本の姿、女性に対する認識、女性が夢見る未来や希望などを理解

できた。

・当時の日本を知ることができた。敗戦後の状況を被害者のように描いている部分には韓国人として違和感を覚えた。

・常に戦争の加害者であると思っていた日本、しかし、その中に生きた人々を通してもう一つの日本の姿を見た。

・戦後日本の状況、「パンパンガール」の実態、無力となった男たちの様子を知ることができた。

・戦後日本の復興の過程にある社会の姿は朝鮮戦争後の韓国の社会と似ていて共感を覚えた。

・映画を通じて戦後の日本の実像に触れることができた。しかし、一部の場面では日本自身が世界大戦の被害者のように描かれ、少しいやな気もした。

・韓国の時代劇と似ていて理解し易かった。韓国には「洋公主」と言う存在がいるが、日本にも同じ女性たちがいたことをこの映画を通じて初めて知った。

・時代や文化が違ってても、愛と欲望に対する理解は国を超えて同じであると思っ

た。
・日本文化と言うよりも時代的背景について理解することができた。しかし、戦争の被害者だった韓国人として、この映画の中では明らかにされない事実、被害者としてのみ描かれる日本人の姿を穏やかな気持ちで観ることができなかった。

・日本の歴史に関心がなかったので全く知らなかったが、終戦後、日本が経験した社会の様々な事柄は韓国の経験と重なる部分も多く、日本も同じ苦しみ味わったことを理解することができた。

また、「砂の器」を観た学生からは、主なものとして次のような感想と意見が寄せられた。

・従順な日本女性の特徴、放浪者がいた時代的背景、地域の建物などから日本の文化や生活を垣間見ることができた。

・内容に夢中になって外国の映画である気がしなかった。最近の二〇代や三

○代が知らない時代背景を通じて、日本やその時代の日本の様子が自然に感じられた。

・映画が製作された時期に生まれた世代として、時代を共感できた。

・殺伐とした都会と田舎の暖かさの明確な対比は、韓国の社会でも現代人の心に共感を覚える部分が多いと思った。決して失ってはならない人間の性、映画を観た人に思い起こすように濃い余韻を残す魔法を仕掛けたようだ。しかし日本文化の独自性をこの映画から見出すことは難しい。音楽や服装も西洋のものであり、地形や四季も韓国と似ている。七〇年代に作られたこの映画は、当時の韓国と比べれば先進的であると言えるが、今の我々にとって過ぎ去った古い文化に過ぎない。韓国の映画、『西便制』を思い出す。人間の「業」を描いた日本の『砂の器』に対し、韓国の「恨」を描いた『西便制』。重なりながら明らかに違う感情の襲。理解したようで、理解しきれない異質感、この異質感を通じて日本の文化を少し味わった気がする。

・全く異なった地域なのに方言が似ることがある。これを言語学的に明らかにして行く展開が面白く新鮮だった。

・当時、問題となったハンセン病に対する人々の認識を取り上げること、単なる映画としての興味に止まらず、人々の考えや態度も知ることができた。

五章 まとめ

今回の調査はある意味で困難な作業であった。清張作品の愛読者が多いと言われる韓国にあって、松本清張原作と銘打った映像物は皆無に等しい状況だったからである。しかし、調査を進めていくうちに「清張の作品をモチーフにしたような韓国ドラマを観たことがある」との話をよく耳にした。

映画やドラマなど、日本の大衆文化が全面的に自由化された二〇〇四年以降、日本でも人気を博したアニメ作品が堰を切ったように韓国に流れ込んだ。

一九六〇年代から八〇年代、日本で盛んに映画化・ドラマ化された清張作品

が韓国内で上映される余地もないほどに、ジャパニメーションがもてはやされた。二〇一〇年三月に韓国で公開された『ゼロの焦点』（犬童一心監督）さえも興行的な成功を収めることはできなかった。

しかし、松本清張への関心は宮部みゆき責任編集による「松本清張傑作短篇コレクション」の刊行によって俄かに高まりはじめた。韓国で人気の高い推理小説家の宮部みゆきが自らの作品のルーツが清張作品であると語ったからだ。人間の営みを尊重し、混沌とした社会の中で懸命に生きようとする加害者と被害者、その両者を取り巻く人間模様のなかで事件を捉える。こうした社会派ミステリーの手法は、情緒的に日本人によく似た韓国人に受け入れやすいものになっている。このことは多くの日本人が韓流ドラマを好む傾向に似ている。

高度経済成長期から安定成長期に移行する韓国にあって、変容する儒教的価値観と薄れゆく大家族の絆。それはあたかも清張作品が愛読された日本の高度成長期の様に酷似している。国は違っても、現代という時代を生きる人々が抱く不安感や寂しさ、痛みへの共感、日韓ともに同時代性の中にあると見ることができるといえる。

こうした状況を踏まえ、大学生を対象にした試写アンケートを行ったが、回答者の半数以上が「清張原作の映画が面白かった」と回答している。これは予想以上の反応であった。上映した二作品共に混沌とした時代の、いわば日本の原風景の中で展開された推理ドラマであったにもかかわらず、韓国人の視点から様々な意見が寄せられた。特に、『砂の器』を観たある学生は、「人間の「業」を描いた日本の『砂の器』に対し、韓国の「恨」を描いた『西便制』、重なりながら明らかに違う感情の襲、理解したようで理解しきれない異質感、この異質感を通じて日本の文化を少し味わった」と述べている。また、半数近いの学生が「清張の作品に興味をもった」と回答するなど、試写会後の反応は松本清張原作の映画やTVドラマが、韓国に於いて注目される可能性を示唆するものであった。しかし、その手法は、ただ単に日本で制作されたものを韓国で上映するのではなく、清張作品の真髄を過去或いは現在の韓国社会という背景のなかで演出する工夫が必要であろう。韓国人の

脚本家と監督による映画化或いはドラマ化は清張作品のグローバル化を図る要素であり、その成功事例を宮部みゆき作品の韓国での映画化に見出すことができる。

資料一―アンケート用紙（日本語）

「松本清張」映像作品に関するアンケート

松本清張は戦後の日本を代表する作家の一人であり、社会派推理小説というジャンルは彼から始まったと言われています。戦後の混沌とした時代、人間の本能や生に焦点を当てた彼の作品は日本の推理小説の中で最も多く映画化・ドラマ化されました。彼の生誕一〇〇周年を記念してリメイクされた『ゼロの焦点』と四〇年程前に制作された『砂の器』をご覧頂き、下記の設問にご回答ください。

学校名： 学年： 年齢： 男・女

一・松本清張という作家をご存じですか。

※知っているかと答えた方への質問

- はい いいえ
- ① 松本清張という作家をどのように認識・評価していますか…
② 読んだことのある作品のタイトルは何ですか…
③ その作品を読んだ感想は…
④ その作品にはどのようにして出会いましたか…
(例：大学図書館、自分で購入、先生の紹介など)…

二・映画『ゼロの焦点』または『砂の器』を知っていましたか。

はい いいえ

※知っていたと答えた方への質問

- ① どのような方法で知りましたか。(例：インターネット、テレビ、雑誌など)…

三・映画『ゼロの焦点』または『砂の器』は面白かったですか。

面白かった 面白くなかった

- ① その理由を教えてください…

② そのほかに感想は…

四・『ゼロの焦点』または『砂の器』を観て原作者、松本清張の作品を読みたいと思いませんか。

はい いいえ

五・『ゼロの焦点』または『砂の器』を観て、作品の時代的背景や日本文化について理解できましたか。

理解できた 理解できなかった

① どんな点が理解し易かったのか、または理解できなかった点を教えてください…

六・上記二作品の他に松本清張原作の映画やドラマを観たことがありますか。

(韓国のテレビ等で放映された『通勤列車ラブ』や『霧の旗』などのドラマを含む)

はい いいえ

※観たことがあると答えた方への質問

- ① どんな作品を観ましたか。(作品名…)
② 媒体は何ですか。(例：テレビ、ビデオ、DVD、インターネットなど)…

アンケート調査にご協力頂いた大学：

江原大学校（国立）：<http://www.kangwon.ac.kr/>
ハンソン大学校：<http://www.hansung.ac.kr/>
ソウル外国語大学院大学校通訳翻訳大学院：<http://www.sufs.ac.kr/>
梨花女子大学大学院通訳翻訳大学院：<http://www.ewha.ac.kr/>
ソナムン大学大学院通訳翻訳大学院：<http://translator.sunmoon.ac.kr/>
中央大学校国際大学院：<http://gsis.cau.ac.kr/>

注

*1 カッコ内の年度は全て韓国での封切り年度である。

*2 一九九七年七月からタイを中心に始まったアジア各国の急激な通貨下落現象は韓国に甚大な影響を及ぼし、韓国では「朝鮮戦争以来、最大の国難」「IMF危機」と呼ばれた。

*3 観客数はソウルに所在する各上映館の観客数の集計である。

*4 ジュヒ（劇場チェーン「シネス」企画／広報理事）

*5 「戦後日本人の暗い自画像」、イ・ファジョン、『シネ21』レビュー、二〇一〇年三月二十四日

*6 「レビュー…犬童一心が見せる本格ミステリースリラー」、アン・ヨヌン、『ムービーウィーク』二〇一〇年三月十三日

*7 「お勤めの番組」、京郷新聞、二〇〇四年八月二二日付

*8 「チャンネル選択」、韓国日報、二〇〇四年八月二二日付

*9 「テレビドラマのHDTV導入に伴う映像の変化についての研究—MBC短編ベスト劇場を中心に—」、http://academic.naver.com/view.nhn?doc_id=12393680&dir_id=0&page=0&query=通勤列車ラフ

*10 「弁護を拒否した弁護士への復習」、京郷新聞、一九八九年四月一五日付

*11 ハ・ズンウ、東亜日報、一九八九年四月一七日付

*12 映画週刊誌 F I L M 2. 0 三八一号、二〇〇八年四月八日付「宮部みゆきのインタビュー」から抜粋

*13 レビュー…「付きまとう薄気味悪さ」、イ・ジュヒョン、『ムービーウィーク』二〇一二年三月五日

*14 特集…「火車・小説VS映画」、キム・ボンソク、『マックス・ムービー』二〇一二年二月二十四日

*15 レビュー…「彼女はなぜソンヨンとして行きたかったのか」キム・ギュハン、『ムービーウィーク』二〇一二年三月七日

平成二十五年一月三十一日発行

第十三回松本清張研究奨励事業研究報告書

編集・発行 北九州市立松本清張記念館

北九州市小倉北区城内二番三号

電話 ○九三―五八二―二七六一

印刷・製本 ㈲プラネット印刷